

平成29年度事業報告書(案)

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

(1)ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図り298,574名の会員を得て、30万人の目標に近づいた。

(2)第26回全国小学生バドミントン選手権大会

12月22日から12月26日までの5日間、広島県立総合体育館で役員延1,092名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単42名、同複34組、女子単42名、同複34組、5年生以下男子単36名、同複34組、女子単36名、同複34組、4年生以下男子単34名、同複34組、女子単34名、同複34組、実人員632名の参加で開催。優勝者は男子団体神奈川県、女子団体埼玉県、6年生以下男子単沖本優大(広島)、同複関根翔太・金本光巧組(東京)、同女子単岩戸和音(北北海道)、同複藤井史穂・吉岡葉菜組(大阪)、5年生以下男子単齊藤礼(福岡)、同複坂本安樹・櫻井慎大組(栃木)、同女子単樋口吹羽(徳島)、同複鈴木あいり・中野真理組(千葉)、4年生以下男子単澤田修志(北北海道)、同複佐藤策太・弓削綾登組(東京)、同女子単山本優愛(愛知)、同複伊藤菜央加・岡本芽組(愛知)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3)第18回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

8月14日から8月16日までの3日間、北海道札幌市北海きたえーるで、役員延890名の指導により、男子Aグループ61名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、女子Aグループ61名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、実人員326名の参加で開催。優勝者は男子Aグループ沖本優大(広島)、同Bグループ澤田修志(北北海道)、同Cグループ宮原圭純(福岡)、女子Aグループ石岡空来(北北海道)、同Bグループ女子平田涼(茨城)、同Cグループ奥田紗世(北北海道)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(4)第16回日本バドミントンジュニアグランプリ2017

11月24日から11月26日までの3日間、栃木県宇都宮市清原体育館他1会場で、役員延250名の指導により、男子の部39団体、女子の部39団体、実人員499名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉県、女子団体千葉県で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(5)第33回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月28日から7月31日までの4日間、長岡京市西山公園体育館で、役員延709名の指導により、男子の部37都道府県48チーム、女子の部37都道府県48チーム、実人員910名の参加で開催。優勝者は男子の部岡垣ジュニア(福岡)、女子の部鶴ヶ島(埼玉)で、少年少女相互の交流と体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げた。

(6)第47回全国中学校バドミントン大会

8月22日から8月25日までの4日間佐賀総合体育館で、役員延1,160名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員439名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子猪苗代中(福島)、同女子猪苗代中(福島)、男子単山下啓輔(猪苗代中)、同複末永逸貴・杉浦壮哉組(猪苗代中)、女子単杉山明日香(四天王寺中)、同複加藤佑奈・大澤陽奈組(青森山田中)で、全国中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(7)第18回全日本中学生バドミントン選手権大会

平成30年3月23日(金)から3月25日(日)までの3日間、ならでんアリーナ・田原本町中央体育館会場で、役員190名の指導により、都道府県対抗男女混合団体49チーム、実人員518名の参加で開催。福島県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。

(8)第46回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成30年3月24日から3月28日までの5日間、愛媛県武道館他2会場で、役員延60名の指導により、学校対抗男子33校、女子34校、実人員500名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子埼玉栄高校(埼玉)、同女子埼玉栄高校(埼玉)、男子単奈良岡功大(浪岡高校)、同複中山裕貴・緑川大輝組(埼玉栄高校)、女子単水井ひらり(ふたば未来学園高校)、同複水井ひらり・内山智尋組(ふたば未来学園高校)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。また、地区予選会を支援した。

(9)第35回全日本レディースバドミントン選手権大会

7月20日から7月23日までの4日間、都道府県対抗の部は、このはなアリーナ体育館で、39都道府県44チーム、実人員416名の参加で開催。優勝者は福岡県。また、クラブ対抗の部は同日、同場所で、43都道府県52チーム、490名の参加で開催。逗子なぎさ(神奈川)が優勝し、レディースへの普及と正しい競技の習得に大きな成果を収めた。役員延727名。

(10)第12回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月8日から12月10日までの3日間、カメイアリーナ(仙台市体育館)他2会場で、ダブルス個人戦で実施し、41都道府県、実人員916名の参加で開催。優勝者は1部松本憧・宮崎友望組(徳島)、2部Aブロック関口美希・矢島茉由子組(群馬)、2部Bブロック西城真理子・岡本麻貴子組(東京)、2部Cブロック上瀧美羽子・伊藤尚子組(宮城)、2部Dブロック稲葉明希・高科庸子組(神奈川)、2部Eブロック本沢有美子・渡辺浩子組(神奈川)、2部Fブロック小原真澄・佐藤忍組(宮城)、2部Gブロック伊嶋恵子・米沢千江美組(千葉)、2部Hブロック宮崎美江子・田倉テイ子組(東京)、2部Jブロック土庵清子・石井伸子組(奈良/山口)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延561名。

(11)用器具検査並びに認定

厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル31種(20社)、第2種水鳥シャトル10種(10社)、ラインテープ5種(4社)、ラケット145種(17社)、検定工場18社、ネット24種(8社)、ストリングス42種(7社)、シューズ62種(9社)、ウェア558種(15社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12) 競技規則書等発行

各都道府県協会並びに7連盟で開催する審判講習会・検定会等でルール周知徹底を図るため2016-2017年競技規則(赤本)・ルール教本(2017年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13) 庶務業務の活性化

次世代会員登録システム都道府県協会担当者説明会を開催し、全国の都道府県協会の登録業務の統一化と活性化を図った。

(14) 広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供することにより、テレビ、新聞等の露出数が増大しPR効果を拡大し、バドミントン競技をより多くの人に理解を広めた。また、ジュニア選手層の開発に向けて、告知ポスター等を作製、全国に配布し、会員、愛好者の拡大を図った。

(15) 学連助成

学連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(16) 高体連助成

高体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(17) 中体連助成

中体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(18) 小学生助成

小学生連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(19) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施した。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣

公認A級・B級のレフェリー有資格者を平成29年度実施の全ての第1種大会(23大会)にレフェリー及びディピュティレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。

(2) 公認審判員養成講習会開催

審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により円滑な大会運営を図るため公認審判員制度を設け、1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、7連盟が主催し開催された。検定会は本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。

(3) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験の合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図った。公認審判員資格登録規程に定める資格取得試験に合格した者は、1級42名、2級111名、3級4,500名、準3級9,822名、準3級から3級への移行者は902名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級174名、2級388名、3級7,768名の有資格者が資格更新登録をした。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会においてその審判能力は、大会運営において大きな効果を挙げた。

(4) 国際審判員資格取得試験受講者の養成と国際審判員資格既得者の研修及び活動

本年も、年に一度の Badminton Asia 認定国際審判員養成セミナーを9月18日から20日まで、東京都(ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2017開催時)において開催した。参加者は3名であった。また、資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会であるチャーニーズタイペイオープン、韓国オープン、フランスオープンに国際審判員を派遣した。また、BWF、Badminton Asia の指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を多数の国際大会へ派遣した。これらの派遣事業は国際交流に大いに貢献した。

(5) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本体育協会と共催して、公認コーチ(バドミントン2級)の養成講習会を10月に前期4日間(静岡市東部体育館26名)、平成30年1月に後期4日間(埼玉県国立女性教育会館29名)で開催した。

また、公認コーチ25名(内過年度分5名)が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本体育協会へ報告した。また、各都道府県バドミントン協会が各々の体育協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認上級指導員(バドミントン3級)を東京都・静岡県、公認指導員(バドミントン4級)を福島県ほか計13県で開催した。

(6) 公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修会

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受けなければならない義務研修会を実施した。公認上級コーチ、コーチの義務研修会は、10月(奈良県天理大学41名2日間)および平成30年1月(味の素ナショナルトレーニングセンター52名2日間)に開催した。最新の情報を得ることや、コーチとしての資質の向上を図りながらコーチ間の連帯を深めた。また、31都道府県協会(延40回)で、公認上級指導員・指導員のための義務研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認上級コーチ、コーチの義務研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認上級指導員、指導員の義務研修会受講者名を、公益財団法人日本体育協会へ報告した。

(7) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

平成30年3月10日・11日東京都法政大学多摩キャンパスにおいて、26名の参加で開催した。

3. 公益財団法人日本体育協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(Badminton Asia)への加盟

(1) 公益財団法人日本体育協会等への代表者派遣

公益財団法人日本体育協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) BWF(世界連盟)総会への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月20日、ゴールドコースト(オーストラリア)で開催されたBWF年次総会に派遣し、国際スポーツ振興のため協調し、世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia(アジア連盟)総会等への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月18日にゴールドコースト(オーストラリア)で開催された Badminton Asia 年次総会に派遣し、アジアスポーツ振興のため協調し、アジアバドミントン競技の発展を図った。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第67回全日本実業団バドミントン選手権福井大会

7月3日から7月9日までの5日間、CNAアリーナ★あきた他計3会場で、男子団体160団体、女子団体43団体、実人員2,647名の参加で開催。男子団体日本ユニシス(東京)、女子団体日本ユニシス(東京)、競技役員延461名。

(2) 第68回全国高等学校バドミントン選手権大会

7月30日から8月3日までの5日間、鶴岡市小真木原総合体育館・鶴岡市藤島体育館・新庄市体育館・尾花沢市文化体育施設「サルナート」の4会場で、男子団体50団体、女子団体50団体、男子単98名、同複98組、女子単98名、同複98組、実人員1,118名の参加で開催。優勝者は男子団体ふたば未来学園高校(福島)、女子団体ふたば未来学園高校(福島)、男子単大林拓真(埼玉栄高校)、同複金子真大・久保田友之祐組(ふたば未来学園高校)、女子単高橋明日香(ふたば未来学園高校)、同複高橋明日香・由良なぎさ組(ふたば未来学園高校)、役員・補助員1,335名。

(3) 第5回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月8日・9日の両日、千葉ポートアリーナで、実人員(選手)140名(70組)の参加で開催。優勝者は古賀穂・中西貴映(早稲田大学)、競技役員延80名。

(4) 第56回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月13日から8月17日までの5日間、郡山総合体育館他1会場で、男子団体17団体、女子団体10団体、男子成壮年団体17団体、女子成壮年団体6団体、一般男子単107名、同複67組、一般女子単31名、同複33組、30才以上男子単43名、同複25組、30才以上女子単7名、同複8組、40才以上男子単50名、同複34組、40才以上女子単8名、同複8組、50才以上男子単52名、同複39組、50才以上女子単13名、同複12組、60才以上男子単22名、同複13組、65才以上男子単17名、同複11組、70才以上男子単13名、同複5組、の参加で開催。優勝者は男子団体福岡県、女子団体香川県、男子成壮年団体熊本県、女子成壮年団体東京都、

一般男子単新田祥基(福島)、同複黒田匠馬・大橋擁太郎組(岐阜)、一般女子単森賀佳奈(愛媛)、同複宮田晶代・高橋彩果組(神奈川)、30才以上男子単佐藤伴哉(青森)、同複二瓶良・本多裕樹組(福島)、30才以上女子単栄代哲子(石川)、同複三品香里・徳竹紫組(東京)、40才以上男子単吉澤賢一(茨城)、同複川添周三・中原学組(高知)、40才以上女子単橋本仁美(香川)、同複坂崎美奈子・木下八枝子組(熊本)、50才以上男子単斎藤清人(福島)、同複江藤正治・三次圭介組(熊本)、50才以上女子単谷藤千香(千葉)、同複菅原千恵子・岡野恵聖子組(東京)、60才以上男子単矢部芳光(福島)、同複三奈木正紀・村田泰己組(山口)、65才以上男子単片山雅博(岡山)、同複澤田隆久・奥山芳男組(福島)、70才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複廣瀬勇夫・副島力組(福岡)、競技役員延500名。

(5)第19回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月16日から8月19日までの4日間、小田原アリーナで、男子団体46団体、女子団体43団体、男子単99名、女子単94名、実人員533名の参加で開催。優勝者は男子団体神奈川県 A、女子団体福岡県、男子単黒田優雅(長崎)、女子単友近瑳花(大阪)、競技役員延280名。

(6)第41回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月19日・20日両日、長岡市市民体育館で、男子団体12校、女子団体9校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員258名の参加で開催。優勝者は男子団体北九州高専、女子団体熊本高専(八代キャンパス)、男子単吉富景陽(北九州高専)、同複國分蓮太・末永圭佑組(北九州高専)、女子単森本暁音(熊本高専(八代キャンパス))、同複森本暁音・伊藤七奈星組(熊本高専(八代キャンパス))、競技役員延137名。

(7)第60回全日本社会人バドミントン選手権大会

9月1日から9月6日までの6日間、広島県立総合体育館大アリーナ他2会場で、男子単390名、同複572組、女子単109名、同複260組、同混合複294組、実人員992名の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(東京)、同複橋本博且・佐伯祐行組(福井)、女子単峰歩美(熊本)、同複志田千陽・松山奈未組(熊本)、混合複高階知也・江藤理恵組(大阪・岐阜)、競技役員延858名。

(8)第36回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月15日から9月18日までの4日間、ALSOKぐんまアリーナで、ジュニアの部男子単75名、同複55組、女子単78名、同複56組、ジュニア新人の部男子単110名、同女子単110名、実人員530名の参加で開催。優勝者は男子単奈良岡功大(青森)、同複中山裕貴・緑川大輝組(埼玉)、女子単水井ひらり(福島)、同複吉田瑠実・齋藤夏組(埼玉)、新人男子単武井凜生(福島)、同女子単杉山薫(福島)、競技役員延790名。

(9)バドミントンS/Jリーグ2017

11月4日から平成30年2月4日まで、熊本県立体育館他15会場で、男子8チーム、女子8チーム、参加選手約180名で開催。優勝者は男子トナミ運輸(富山)、女子日本ユニシス(東京)、競技役員延2000名。

(10)バドミントン日本リーグ2017

11月17日から19日までの3日間、ジオアリーナ勝山で、男子8チーム、女子8チーム、参加選手約150名で開催。優勝者は男子 JTEKT(愛知)、岐阜トリッキーパンダース(岐阜)、競技役員延500名。

(11)第68回全日本学生バドミントン選手権大会

10月20日から10月26日までの7日間、一宮市総合体育館で、男子団体32団体、女子団体32団体、男子単101名、同複100組、女子単100名、同複98組、実人員788名の参加で開催。優勝者は男子団体早稲田大学、女子団体筑波大学、男子単古賀穂(早稲田大学)、同複玉手勝輝・山下恭平組(日本体育大学)、女子単中西貴映(早稲田大学)、同複加藤美幸・柏原みき組(筑波大学)、競技役員延343名。

(12)第34回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月17日から20日までの4日間、いしかわ総合スポーツセンター他7会場で、30歳上男子単150名、同複123組、30歳以上女子単33名、同複58組、30歳以上混合複77組、35歳以上男子単135名、同複94組、35歳以上女子単33名、同複56組、35歳以上混合複75組、40歳以上男子単129名、同複143組、40歳以上女子単41名同複88組、40歳以上混合複102組、45歳以上男子単124名、同複111組、45歳

以上女子単51名、同複89組、45歳以上混合複100組、50歳以上男子単112名、同複106組、50歳以上女子単51名、同複91組、50歳以上混合複107組、55歳以上男子単98名、同複91組、55歳以上女子単39名、同複85組、55歳以上混合複94組60歳以上男子単91名、同複89組、60歳以上女子単36名、同複53組、60歳以上混複62組、65歳以上男子単89名、同複76組、65歳以上女子単24名、同複42組、65歳以上混合複50組、70歳以上男子単51名、同複40組、70歳以上女子単25名、同複32組、70歳以上混合複32組、75歳以上男子単29名、同複26組、75歳以上女子単14名、同複18組、75歳以上混合複26組、延べ5,827名の参加で開催、30歳以上男子単井上知也(東京)、同複川嶋太郎・青木達也組(千葉)、30歳以上女子単間瀬さやか(愛知)、同複金子ゆかり・井上杏莉組(東京)、30歳以上混合複大石斉・地神加奈子組(兵庫・鳥取)、35歳以上男子単野村和弘(千葉)、同複藤本ホセマリ・福井剛士組(東京)、35歳以上女子単大石瞳(福岡)、同複比留川夕子・石橋律子組(東京)、35歳以上混合複岡田淳・岡田由妃組(大阪)、40歳以上男子単藤本ホセマリ(東京)、同複山下大介・古川勝也組(佐賀・長崎)、40歳以上女子単松田奈緒子(石川)、同複小金井美和・高橋百恵組(神奈川)40歳以上混合複磯貝謙太郎・加藤千里組(愛知)、45歳以上男子単土屋憲法(東京)、同複濱路圭・和久井伸一組(神奈川)、45歳以上女子単横手智江美(岩手)、同複羽生美恵・上田彰子組(茨城・東京)、45歳以上混合複武田博和・宮部清美組(北海道)、50歳以上男子単東太郎(三重)、同複新井光寿・橋場孝啓組(北海道)、50歳以上女子単櫛山久美子(北海道)、同複櫛山久美子・佐藤律子組(北海道・青森)、50歳以上混合複白木耕太郎・工藤なおみ組(東京)、55歳以上男子単高橋光一(石川)、同複末坂進・神代和久組(富山)、55歳以上女子単菊池葉子(東京)、同複井下由紀子・松原春美組(広島)、55歳以上混合複神代和久・山西智佳子組(富山・愛知)、60歳以上男子単管敏明(長崎)、同複弓削義雄・中村一弘組(大阪・和歌山)、60歳以上女子単新田豊子(香川)、同複太田清子・森田須賀子組(静岡・大阪)、60歳以上混合複高野一男・今津裕美組(福井・埼玉)、65歳以上男子単青山伸幸(愛知)、同複浅見初男・青山伸幸組(東京・愛知)、65歳以上女子単澄川稔子(兵庫)、同複宮崎美江子・西村孝子組(東京・三重)、65歳以上混合複山本秀夫・桶谷千鶴子組(石川)、70歳以上男子単岡本哲男(大阪)、同複後藤誠・古橋政紀組(宮城)、70歳以上女子単藤原三和(神奈川)、同複土庵清子・石井伸子組(奈良・山口)、70歳以上混合複渡辺直人・米口順子組(神奈川・東京)、75歳以上男子単小山包博(神奈川)、同複小川昌之・小山包博組(神奈川)、75歳以上女子単西田ヨシ江(神奈川)、同複道家幸・尾崎喜代子組(愛知・岐阜)75歳以上混合複羽隅弘治・近藤明子組(神奈川)、競技役員延1,657名。

(13)平成29年第71回度全日本総合バドミントン選手権大会

11月28日から12月3日までの6日間、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で男子単53名、同複55組、女子単59名、同複48組、混合複42組、実人員402名の参加で開催。優勝者は男子単武下利一(トナミ運輸)、同複遠藤大由・渡辺勇大組(日本ユニシス)、女子単山口茜(再春館製薬所)、同複福島由紀・廣田彩花組(再春館製薬所)、混合複渡辺勇大・東野有紗組(日本ユニシス)、競技役員延1,800名。

(14)日本マスターズ2017バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月16日から9月18日までの3日間、ウインク体育館(姫路市立中央体育館)で、男子30都道府県、女子27都道府県でのリーグ戦を勝ち抜いたチームによるトーナメント戦で実施。実人員379名の参加で開催。優勝者は男子東京都、女子福岡県、競技役員延431名。

(15)第72回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、10月6日から10月9日までの4日間、砥部町陶街道ゆとり公園体育館で、成年男子16団体、成年女子32団体、少年男子47団体、少年女子16団体、実人員444名の参加で開催。優勝者は成年男子の部富山県、成年女子の部秋田県、少年男子の部熊本県、少年女子の部茨城県、競技役員延276名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1)ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2017

9月19日から9月24日までの6日間東京体育館で、男子単44名、同複44組、女子単44名、同複44組、混合複44組、実人員288名(日本選手76名、外国選手212名)の参加で開催。優勝者は男子単ビクターアクセルセン(デンマーク)、同複マルクスフェルナンディギデオン・ケビンサンジャヤスカムルジョ組(インドネシア)、女子単キャロリーナマリ(スペイン)、同複松友美佐紀・高橋礼華組(日本)、同混合複ワンイルユ・ファンドンピン組(中国)、競技役員延1,224名。

(2)ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2017

3月29日から4月2日までの5日間、守口市市民体育館で、男子単51名、同複37組、女子単32名、同複28組、混合複29組、実人員271名(日本選手138名、外国選手133名)の参加で開催。優勝者は男子単五十嵐優(日本)、同複ワンシジェ・ジュガルカイ組(中国)、女子単高橋沙也加(日本)、同複キムソン・ユヘオン組(韓国)、同混合複ワンシジェ・ニボウエン組(中国)、競技役員延704名。

(3)ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2017

10月25日から10月29日までの5日間、エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)他1会場で、韓国他7ヶ国を迎え、トーナメント戦で実施し、実人員1,987名(日本選手1,755名・外国選手232名)の参加で開催。優勝者はAゾーン YONEX MULAN(中国)、Bゾーン Chinese Taipei A(台北)、Cゾーン FORMOSA(台北)、Dゾーン Chinese Taipei D(台北)、Eゾーン小俣レディースC(三重)、Fゾーンオールド(大阪)、Gゾーンきりり東京(東京)、Hゾーンフラワーズ(東京)、Jゾーン東京セブンティ(東京)が優勝し、国際親善への普及と発展に成果を収めた。競技役員延643名。

(4) 日・韓高校生交流競技会

12月6日から11日までの6日間、長崎県長崎市で団長長谷川博幸他役員2名、選手男子10名、女子8名、韓国団長 PYO Seon HO 他役員3名、選手男女各8名を迎え開催。成績は、男子団体3勝、女子団体3勝。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) 2017アジアバドミントン選手権大会

4月25日から4月30日までの6日間、中国武漢市へ団長朴柱奉他5名選手男子14名、女子15名、計35名を派遣。成績は、女子複高橋礼華・松友美佐紀組優勝、女子単山口茜2位、男子複園田啓吾・嘉村健士組3位。

(2) 第34回日韓ナショナル競技大会

5月5日から5月8日までの4日間、韓国済州島へ団長銭谷欽治他役員3名、選手男女各7名を派遣。成績は、男子団体2敗、女子団体2敗。

(3) 韓・日高校生交流競技会

5月15日から5月20日までの4日間、韓国蔚山広域市へ団長明神憲一他役員2名、選手男女各8名を派遣。成績は、男子団体1勝1敗、女子団体1勝1敗、男女混合団体1敗。

(4) 第15回スディルマンカップ

5月17日から5月29日までの13日間、オーストラリア・ゴールドコースト市へ団長上松芳則他役員10名、選手男女各8名を派遣。成績は、団体3位。

(5) 第23回世界選手権大会

8月16日から8月29日までの14日間、スコットランド・グラスゴー市へ団長京田和男他役員14名、選手男子11名、女子14名を派遣。成績は、女子単奥原希望優勝、女子複福島由紀・廣田彩花組2位、高橋礼華・松友美佐紀組3位、男子複園田啓吾・嘉村健士組3位。

(6) 第29回ユニバーシアード競技大会

8月20日から8月31日までの12日間、台湾・台北市へ団長宮崎重勝他役員4名、選手男女各6名を派遣。成績は、団体2位、男子単西本拳太2位、五十嵐優3位、男子複玉手勝輝・三橋健也組2位、女子複加藤美幸・柏原みき組3位。

(7) 第25回日・韓・中ジュニア交流競技会

8月25日から8月27日までの3日間、茨城県・石岡市で開催。総監督渡邊励他役員2名、選手男女各6名を派遣。成績は、男子団体2勝1敗、女子団体3勝。

(8) 2017世界ジュニア選手権大会

10月6日から10月23日までの18日間、インドネシア・ジョグジャカルタ市へ団長田部井秀郎他役員6名、選手男女各9名を派遣。成績は、団体3位、男子複金子真大・久保田友之祐組優勝、男子単奈良岡功大3位。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

公益財団法人日本体育協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を整える。

(2) アンチドーピング対策

JADA(公益財団法人日本アンチドーピング機構)との協力により、「日本ドーピング防止規定」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施する。

(3) 選手強化

本年度は、2020年東京オリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルトレーニングセンターの有効活用や国際大会への派遣を行い、ナショナルチームのより一層の選手強化を図った。結果として、第23回世界選手権大会では、日本バドミントン協会初となる女子シングルスで金メダル、女子ダブルスで銀・銅メダル、男子ダブルスで銅メダルを獲得するなど好成績をあげた。また、ジュニア層においても小中高一貫指導体制により、競技力向上を図り、次代のオリンピック、世界選手権大会に備え、有望選手の発掘に努めるとともに、強化合宿及び小中高校生の海外交流をはじめ国際大会へ派遣するなど選手強化体制の充実を図り、世界ジュニア選手権大会の男子ダブルスにおいて優勝するなど好成績をあげた。

(4) 競技用具補助

競技技術の向上を図るため国際競技会出場選手109名に対し、競技用具を補助した。